

# 日高軽種馬協会のたより

**HBA**

日高軽種馬農業協同組合

☎0146-22-2258 FAX 22-3452

令和5年9月15日

第 **400** 号



## 天高く馬肥ゆる秋を迎える

### 〈主な内容〉

- サマーセールを振り返って……………2～3ページ
- 理事会の内容について……………4ページ
- 8月の競馬トピックス……………5ページ
- 馬獣医のよもやま話……………6ページ

## サマーセール 売上総額レコードを更新

8月21日(月)～25日(金)までの5日間、北海道市場サマーセールが開催され、売上総額は82億5,935万円(以下、全て税込み)、平均価格は773万円、中間価格583万円、売却率は78.07%となり、売上総額と平均価格、中間価格はサマーセールレコードを更新する結果となった(比較については次頁参照)。最高取引価格馬は上場番号1084番パルスピュール2022(荻伏・(有)小島牧場)の5,940万円だった。

今年は、かつてない暑さの中でのサマーセールとなった。日高でも熱中症警戒アラートが発令され、日陰に居てもうだるような暑さを感じるほどで、涼をとるためのミストや扇風機の設置をしたが、想定を超えた暑さでセール開催中も扇風機を追加導入しながらの開催となった。そのようななか上場頭数は1368頭、購買登録者は1657名と、いずれも過去最高を数え、各関係者のサマーセールに対する熱量の高さを感じるような5日間となった。

今年はひときわサマーセール取引馬の活躍が目立っている。ミクソロジー、イグナイター、ララクリスティース、ペリエールが重賞を勝利し、ついにはミックファイアがジャパンダートダービー(Jpn I)を制してG I馬となった。マンダリンヒーローは地方競馬所属ながらアメリカ・サンタアニタダービー(G I)で2着となった後、ケンタッキーダービー(G I)にもゲートインを果たし、セール直前の札幌記念(G II)では、トップナイフが豪華メンバーのなか2着に好走をするなど、国内外、芝ダート距離を問わないあらゆるカテゴリーでサマーセール取引馬の活躍を目にした。

開催に先立って、上述のミックファイアの表彰式が執りおこなわれ、オーナーの星加浩一氏(代理として管理調教師の渡邊和雄氏)、生産者を代表して高橋政弘氏、主戦として手綱をとった御神本訓史騎手が出席した。

こうして開幕した初日には、セレクションセールでも人気を博したスワーヴリチャード産駒とキタサンブラック産駒が登場。それぞれ1頭ずつの上場となったが、スワーヴリチャード産駒の上場番号12番リトルシャンブルズ2022(静内・(有)フジワラファーム)が2,530万円、キタサンブラック産駒の上場番

号162番スルターナ2022(新冠・(有)村田牧場)が2,860万円といずれも高評価での取引となった。初日の平均価格711万円、売却率78.87%はともに前年とほぼ横ばいの結果となった。

2日目もスワーヴリチャード産駒が高評価を得ることとなり、上場番号527番ブラックカシ米尔2022(荻伏・(有)バンブー牧場)がこの日の最高価格となる3,410万円での取引となった。この日は、モズアスコット、タワーオブロンドン、ルヴァンスレーヴなどの新種牡馬産駒にも人気が集まり、ルヴァンスレーヴ産駒の上場番号570番ミステールヴェール2022(浦河・(有)日進牧場)が牝馬最高価格となる2,530万円で取引となった。この日の平均価格734万円は前年比で増、売却率74.39%を記録したが前年比で減となった。

3日目は、「売れ方が変わった」と周囲から耳にするほど盛況となり、4,000万円を超える取引馬が3頭誕生した。シルバーステート産駒の上場番号860番ミスエンピリカル2022(荻伏・高岸順一)が4,620万円、ダノンバラード産駒の上場番号738番ショウナンアオバ2022(荻伏・(有)大北牧場)が4,290万円、ホッコータルマエ産駒の上場番号767番タマノエスペランサ2022(新冠・(有)武田牧場)が同じく4,290万円で続いた。この日は平均価格833万円で前年比増、売却率は前年比でほぼ横ばいの79.48%を記録した。

4日目は更に活況となり、この日からサマーセール最高落札価格馬が誕生した。上場番号1084番パルスピュール2022(荻伏・



最高取引価格馬：パルスピュール2022  
荻伏・(有)小島牧場生産

(有)小島牧場)がキタサンブラック産駒の牡駒。母バルスピーールは新潟直線芝1000mで2勝をあげるなどJRAで3勝の実績が光る快速馬だったが、そこにキタサンブラックを配された本馬は好馬体が評価され、本セール最高落札価格となる5,940万円で秋元竜弥氏によって取引となった。このほか、シニスターミニスター産駒の上場番号1125番ヘルディン2022(宮崎・(有)アクセス・ワン)が3,850万円で取引となるなど、この日の平均価格は前年比170万円増の900万円、売却率79.26%の大盛況となった。

最終日はホッコータルマエやルヴァンスレーヴなどのダート系種牡馬に人気が高く集まり、ホッコータルマエ産駒の上場番号1275番コシミノダンサー2022(荻伏・(有)大島牧場)が2,530万円で取引となるなど5頭が2,000万円を超える取引となった。この日は、平均価格が前年比で18万円減となる686万円だったものの、中間価格は550万円、売却率は前年比で3.75%増となる78.54%を記録し、最終日まで堅調な取引がおこなわれた。

年々勢いが増す各地方競馬馬主会による補助馬購買については、高い購買熱があり、取引馬全体の約2割(222頭)が馬主会の冠が付いた購買者名による取引だった。取引価格帯別に見てみると、1,000万円～1,500万円の価格帯で156頭(昨年比55頭増)が取引となったが、割合でも4.1%増で全体の14.6%を占めている。この価格帯の購買者層を見てみると、うち43頭(156頭=27.56%)が馬主会の冠がついており、昨年21頭から倍近

く増加していた。このことから補助馬購買によるこの価格帯の購買熱の高さを裏付けている。

種牡馬別に見てみると、2歳戦好調のスワーヴリチャード産駒が8頭上場で7頭が取引となり平均価格1,604万円、堅実な活躍を見せるシニスターミニスター産駒が18頭上場で全頭が取引となり平均価格1,496万円となるなど直近の産駒成績が反映される結果となった。また、昨年のサマーセールでは1,000万円を超える取引のなかったオルフェーヴル産駒は7頭上場で4頭が1,000万円を超える取引となり平均価格が1,558万円(昨年比975万円増)を記録し、ダノンレジェンド産駒も27頭が上場で10頭が1,000万円を超える取引で平均価格が1,062万円(昨年比500万円増)を記録するなど大きく評価を上げた。さらに、12頭上場のミッキーアイル産駒は最高取引価格が1,815万円だったが、9頭が1,000万円を超えるアベレージの高さを見せ、平均価格1,368万円を記録した。

古川組合長は「頭数は去年よりも多かったのですが、購買者の皆様には活発にお声掛けいただきました。一方で、せりが終わる時間をもっと早ければと思っていますので、日程については検討を続けたいです。また、牡馬だけでなく牝馬も高い金額で取引していただいたことから次のセールに希望の持てる数字が出たと思います。今年は特に暑かったですが、冷房や空調に関しては改善して快適にせりに参加していただけるように対策を講じたんです。」と、サマーセールを振り返った。

### 【サマーセール(サラ1歳) 5年間の比較】

	令和5年	令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
平均価格	↗ 7,733,474	↗ 7,332,682	↓ 6,884,860	↗ 6,935,600	↗ 5,748,140
中間価格	↗ 5,830,000	→ 5,500,000	→ 5,500,000	↗ 5,500,000	↗ 4,536,000
出場頭数	↗ 1,368	↓ 1,237	↗ 1,336	↓ 1,072	↓ 1,197
売却頭数	↗ 1,068	↓ 958	↗ 1,004	↓ 825	↗ 859
売却率	↗ 78.07%	↗ 77.44%	↓ 75.15%	↗ 76.96%	↗ 71.76%
売上総額	↗ 8,259,350,000	↗ 7,024,710,000	↗ 6,912,400,000	↗ 5,721,870,000	↗ 4,937,652,000
購買登録者数	↗ 1,657	↗ 1,523	↓ 1,376	↗ 1,454	↗ 1,127
購買実数	↗ 628	↗ 563	↗ 529	↗ 420	↓ 410

※ 単位(円、頭、名)、価格は税込、矢印は前年対比

※ 令和2年の購買登録者数はセレクションセールとの合算

## 理事会の内容について

【第6回理事会】

◇令和5年8月9日 13時30分 静内支所

〈報告事項〉

1. 第4回、第5回、第6回市場委員会の内容について
2. 第1回振興会長会議の内容について
3. 第1回役員定数問題審議会の内容について
4. 北海道軽種馬貿易(株)  
第12回定期株主総会の内容について
5. (公社)日本軽種馬協会第3回理事会の内容について
6. 第1回軽種馬海外流通促進事業会議の内容について
7. 日高軽種馬振興対策推進協議会  
令和5年度定期総会内容について
8. 令和5年度JRA・JBBA  
日高地区生産地懇談会の内容について
9. 第6回総務・診療委員会の内容について
10. 人事異動の内容について

〈議案〉

1. 組合員の加入について
2. 中間監査の内容について

〈協議事項〉

1. その他

## JRA 北海道シリーズ閉幕

6月10日の函館からスタートしたJRA北海道シリーズが9月3日の札幌をもって閉幕した。函館開催は6週の開催で903億1806万円（前年比103%）、札幌開催は7週の開催で1270億7130万円（前年比103.7%）を売り上げ、13週合わせて2173億8936万円（前年比103.4%）の売上となった。重賞競走は8レースが生まれ、うち5レースで日高産馬が優勝したほか、メイクデビューからは次世代のスター候補もデビューを迎えた。

最終週におこなわれた札幌2歳ステークス（GⅢ）では、セレクトセール取引馬のセットアップ（静内・有）フジワラファーム生産が優勝するなど市場取引馬も開催を盛り上げた。JRAではGⅠ競走が設定されない夏開催にあって、伝統の札幌記念（GⅡ）ではジャックドールやシュフリヤールといったGⅠ戦線で活躍する好メンバーが揃い、熱戦が繰り広げられ熱く競馬ファンを盛り上げた。また、世界の名手が集うワールドオールスタージョッキーズでは、日本ではお馴染みとなったジョアン・モレイラ騎手や、アルピニスタで今年の凱旋門賞を制したルーク・モリス騎手などが参戦し、鎬を削った。

素質馬のデビュー、スーパーGⅡ札幌記念、世界の名手の腕を間近で感じられるなど、北海道シリーズには幾つもの魅力が詰まっている。来年の開催を楽しみに待ちたい。

## 浦河労働基準監督署からのお知らせ

みんなでチェック！ 最低賃金  
**北海道最低賃金**

北海道内で事業を営む使用者及びその事業場で働くすべての労働者（臨時、パートタイマー、アルバイト等を含む）に適用される北海道最低賃金（地域別）が改正されました。

最低賃金額 時間額 **960円**

効力発生日 令和5年10月1日

# 8月の競馬トピックス

## セキフウ 北海道3連戦の有終の美を飾る

8月6日におこなわれたエルムステークス賞（GⅢ）でセキフウ（荻伏・(有)バンブー牧場生産）が勝利した。後方待機から札幌の短い直線を目の覚めるような末脚で差し切り、2度目の重賞制覇となった。

## ライオットガール 準オープン接戦の実力見せつける

8月6日におこなわれたレパードステークス（GⅢ）でライオットガール（荻伏・(有)ヒダカファーム生産）が勝利した。3頭横並びとなったゴール前をしぶとく抜け出し、初の重賞制覇となった。

## エヒト 得意の小回りで完勝

8月13日におこなわれた小倉記念（GⅢ）でエヒト（門別・(株)白井牧場生産）が勝利した。ロスのないコース取りから直線抜け出すと、2着馬に2馬身半差を付けての完勝だった。これで2度目の重賞勝利となった。

## リメイク インから一気に突き抜ける

8月15日におこなわれたクラスタークップ（JpnⅢ）でリメイク（新冠・(有)ノースヒルズ生産）が勝利した。中団の位置取りから上がり3ハロン33.5秒の極上の瞬発力で重賞2勝目を手にした。

## テリオスベル 余裕の逃げ切りで重賞2勝目

8月17日におこなわれたブリーダーズゴールドカップ（JpnⅢ）でテリオスベル（静内・(有)野坂牧場生産）が勝利した。1コーナーまでにハナに立つと、あとは影さえ踏ませない逃走劇での圧勝となった。なお、本馬は2018年のサマープレミアムセールでの取引馬。

## ナムラクレア 秋の大一番に向け弾みの勝利

8月27日におこなわれたキーンランドカップ（GⅢ）でナムラクレア（浦河・(有)谷川牧場）が勝利した。悪天候により重馬場発表のタフなレースとなったがしぶとく抜け出し重賞4勝目となった。

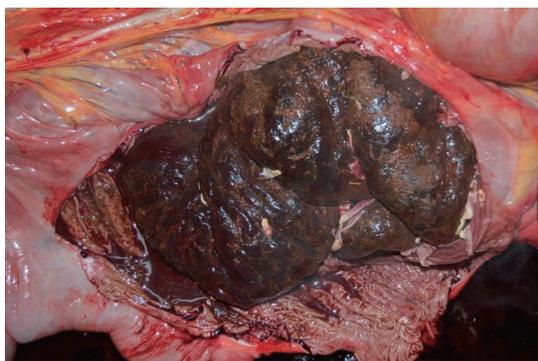
## サンライズホーク 能ある鷹は爪を隠す

8月31日におこなわれたサマーチャンピオンシップ（JpnⅢ）でサンライズホーク（門別・(有)下河辺牧場）が勝利した。初の1400mだったが初めて逃げの手を打ち、後続を寄せ付けない完勝での初の重賞制覇となった。

## 葉状条虫を駆虫せねば

静内診療所 井上 哲

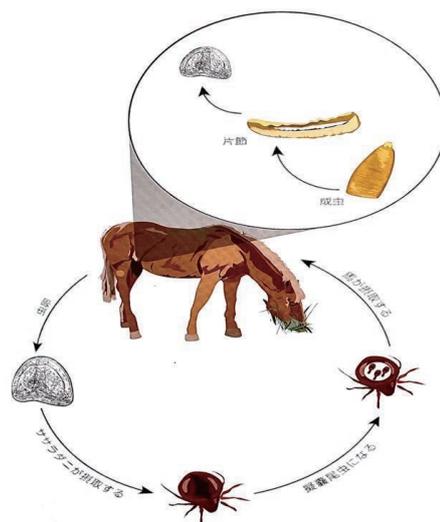
年々暑さが増しているように感じる夏、この記事が軽協便りに載るころには涼しくなっていることでしょう。世間では、熊や鹿の出没が増えているというニュースをよく耳にしますが、個人的には育成馬の盲腸重積に立て続けに2例遭遇した先生がいらっしやったことに驚いております。馬の盲腸重積は疝痛馬全体の2%以下とも1%以下とも報告されているほどまれな病気で、昔から葉状条虫寄生が原因の一つと考えられてきました。この寄生虫の濃厚感染が馬に影響を及ぼす代表的な病気として、前述した盲腸や回盲部の重積症が挙げられ、慢性的な疝痛症状が特徴とされます。これら疾患は発症すると内科治療に反応することは珍しく開腹手術の適応となることがほとんどです。しかし、葉状条虫を駆虫することで予防できると考えます。



腹側結腸切開後に中から現れた盲腸粘膜と葉状条虫

それでは具体的に何をいつごろやるかです。近年、薬剤耐性寄生虫の出現により、統一的な駆虫プログラムから濃厚感染した馬だけをターゲットに駆虫する考え方が浸透する中で、葉状条虫についても虫卵検査の結果を踏まえ駆虫を行うのが理想です。しかし厄介なことに葉状条虫卵の検出感度は低く、卵が観察されないからといって感染して

いないとは言い切れない事情があります。そのため無作為に選ばれた数頭を検査することにより郡単位の感染状況を推測するか、駆虫後に虫卵検査をすることで汚染状況を把握しているのが現状です。また、経験的に葉状条虫が関係していると思われる馬の疝痛は秋から冬(初春)に多い傾向にあり、これは放牧中の馬が牧草を食むと同時に中間宿主であるササラダニを摂取することで感染が成立するサイクルに関連付けられます。



葉状条虫の生活環『馬の寄生虫対策ハンドブック』より引用

幸いにも我が国における葉状条虫に対する薬剤耐性は回虫ほど深刻ではありません。したがって、当歳馬を含むすべての馬を対象にプラジカンテル製剤による駆虫を秋(晩夏)に行うことで葉状条虫が原因とされる疝痛を予防できると考えます。追伸: 犬に付着するダニの数が増えていると感じるのは私だけでしょうか…。